

慶応二年三月十四日より慶応二年三月十七日まで

P8310575 right

来り肥後瓢(二升入)を贈らる、坂地産品等を遣す、明日四時御用召、御奉書周防守殿より御達有し、周助御請に遣す、抑齋一談坂産品少許遣す、

十五日戌 晴

伊藤(幸)方へ太郎して坂産品少許遣す、兼松加冠の儀、本日施行の賀とて赤飯一重贈り越し且実名選定を乞へり、御用召登城、欧州帰府御禮被仰付(芙蓉間御替席)周防守殿御謁、坂地御用旅御扶持方札差へ為持遣す、鉦次郎名前鉦の字難読に付、次郎吉と名改む、須崎(常)志願筋の儀に付来る、正覚稽古に来る、金川方定番役小沢平三郎妻より花井□五郎へ掛り養子故□の義、願書持参す、周助取斗を以、申渡し書面返し遣旨、西村(鉄)へ先般借用秘蔵書三冊返し、坂地産煙具を遣す、兼松実名、俗名とも選み酒、並肴料遣す、右

P8310575 left

正覚常太郎へ坂地産品数種、並正覚には此程中抱屋敷の義、彼是周旋も有し趣に付二方遣す十六日亥 晴

荒井(定)来る辞して不面、沢(錦)来る初て面す、松盛齋稽古に来る、扇二柄を遣す、のぶ秀宿下に

遣し小品(茗朱ずつ)添遣し候旨、西村(鉄)昨謝に來りし旨、開成所於るて展覧場へ、御差廻し品の内漆器類

等御老若御見分有しに付、午下より同所へ出る、御老中方は御用にて御越し無し、□□殿兵□殿、御兩人

御越有し、藤山稽古に來りし旨
十七日子 雨夕前晴

足痛治療のため、頼合、欧州留守中定節母□□尋問せし由にて謝として欧品二を遣す、菊池(豫)より着賀として酒一樽贈り来る、同氏へ右謝を兼当番頼の挨拶旁黒ラシャ羽おり地を贈る

()内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【文字判読不可】、■は、文章の一部に汚れがある、虫食いにより文字が無い等です。